

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 異なる価値観を融合する検索基盤の創成

2. 個人研究者名

吉田 壮（関西大学 システム理工学部 助教）

3. 事後評価結果

本研究では、正確性、多様性、説明可能性に配慮した検索・推薦の設計という研究目的に対して、虚偽情報の検知、推薦ランキングの多様化、虚偽情報の検出理由の可視化という3種類の基盤アルゴリズムを開発し、研究目的を達成した。虚偽情報の検知では、ユーザのスタンス分析も含めるなど、様々な工夫で検知精度を向上させている。虚偽情報の検出理由の可視化では、ユーザ評価を実施し、その有効性を確認しており、当初の目的以上の成果を上げている。

当初、研究補助員の雇用を計画していたが、適任者の不在により雇用ができず、研究代表者自身がデータ収集、アノテーションなどの作業まで実施するなど、予定外の研究実施体制となったが、その状況でも多くの成果を上げた点は評価できる。

サイバー空間が主要な情報収集源となり、ともすると他者への想像力が欠如し社会の分断を促進する場として機能しかねないソーシャルメディアを、より良いものにすることを目指す本研究は、社会的意義が大きい。本研究で可視化された、虚偽情報の検出理由の可視化ツールは利用者のリテラシー向上にもつながるものであり、多様性に配慮した社会の実現への貢献が期待される。